

Contents *****

特集：2024年米大統領選の結果分析	1p
＜海外報道ウォッチ＞	
トランプ当選に伴う泣き笑い	7p
＜From the Editor＞ 祝！通巻800号記念	9p

特集：2024年米大統領選の結果分析

ご案内の通り、11月5日の米大統領選挙はドナルド・トランプ前大統領の圧勝に終わりました。事前に予想された「接戦」ではなく、事前に懸念された「トラブル」もほとんど起きていない。そんな中で、トランプ陣営は手際よく閣僚人事を公表しつつあります。

しかし次期政権の動きを追う前に、選挙結果を分析しておきたいと思います。示された民意の中身、トランプ氏の勝因、そして敗れた民主党の再起シナリオなど、すべてのヒントは選挙結果にあります。おそらくトランプ氏自身も熱心に検討しているはずです。

本誌の前号ではわが国の総選挙について、「比例代表の得票数」を使ったお馴染みの分析を試みました。本号は米大統領選について、これまたいつもの手法を使っております。

●トランプ氏はなぜ疲れていないのか

「4年に1度」のサイクルを長らく見てきた者の個人的な印象だが、米大統領選挙後の日程は、「感謝祭」がひとつの区切りになることが多い。感謝祭は11月の第4木曜日であるから、今年の場合は11月28日となる。

すなわち選挙のほぼ3週間後、感謝祭の直前くらいに新政権の閣僚人事がどどどと発表される。なぜそうなるかは極めて簡単で、大統領候補は長い選挙戦ですすがに疲れが溜まっている。「感謝祭くらい休ませてくれ」ということになるので、その前にバタバタと次期政権の人事を決めるのである。バラク・オバマは当選後の感謝祭には、いきなりハワイに帰ってしまい、サンダル履きになって「素の自分」に戻ったそうである。

ところが今年のトランプ氏は、まったく疲れなど感じさせない。何しろ人事の公表が異常に早い。しかもそこそこ秩序だっている。8年前、ヒラリー・クリントンにまさかの勝利を得た後の混乱ぶりとはまるで別世界だ。ひとつには、大統領首席補佐官に任命されたスーザン・ワイルズ前選対本部長の調整力を評価する声もある。

投票日を終えた週末、11月9日にはトランプ氏は自らのSNSで、「ニッキー・ヘイリーとマイク・ポンペオを現在検討中のトランプ政権に招くつもりはない」と発信した。こう言うと語弊があるけれども、「まともなヤツらは要らない」と言っている感がある。「ああ、トランプさんは MAGA 派で周りを固めるつもりなのだな」と思って、いささかげんなりしたものである。

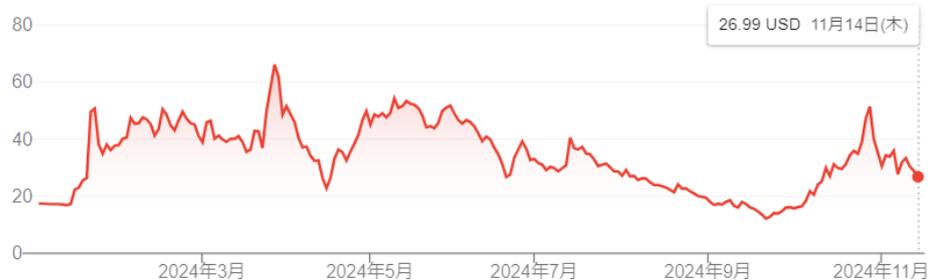
とはいえ、これも致し方ないところがある。仮に選挙結果が事前の予想通り僅差となり、トランプ氏の紙一重の勝利であったならば、共和党保守本流のベテラン勢の登用もあり得たところだろう。しかるに今回の選挙は、完膚なきまでの共和党の勝利である。トランプ陣営が「民意は我が方にあり」「人事で多少の冒険しても構わない」と考えるのも無理からぬことではないだろうか。

もっと言えば、「今までの疲れが吹っ飛んだ」とばかりに、ご本人が「ハイな気分」になっている可能性もある。

トランプ氏本人の立場になってみれば、ホンネベースでいちばん気になるのは「4つの刑事裁判」であろう。大統領になれば不逮捕特権があるとはいえ、退任後にお縄になったのでは元も子もない。まずは自分と家族の身の安全を図らねばならないが、自分が「2秒でクビにする」までもなく、特別検察官のジャック・スミスは辞任する見込みである。これで「1月6日事件」「機密文書事件」は無害化されたことになる。

既に有罪判決が出ている「口止め料事件」は、NY州地裁が11月26日に量刑を言い渡す予定だが、その雲行きも怪しくなってきた。最高裁の「大統領免責特権」判断に伴い、有罪判決が取り消されるかもしれない（仮に量刑になっても罰金刑であろう）。最後に残った「ジョージア州」事件は、州検察内の不祥事により、いつ初公判になるのか見当もつかない。一時は絶体絶命だったトランプ氏は、ほぼ「お咎めなし」になりそうである。

もうひとつ、興味深いのは本誌がたびたび取り上げてきた TMTG 社の株価である。トランプ氏が時価総額の約6割を保有する文字通りの「米びつ」的存在であり、これまで思惑買いと売りが交錯してきた。選挙直前には勝利への期待で50ドルまで上昇したが、それが現在は20ドル台まで下落している。「噂で買って現実で売る」という相場格言通りの展開である。次期大統領の気分としては、「めでたさも中ぐらい」であろうか。



始値	29.72	時価総額	58.55億	52週高値	79.38
高値	29.78	株価収益率	-	52週安値	22.55
安値	26.36	配当利回り	-		

●2024年選挙は「大差の勝利」となった

トランプ政権の先行きについては、既に多くの情報が乱れ飛んでいる。ただし「早耳情報」をもとに「トランプ占い」に励むよりは、今回の選挙結果をきっちり分析しておく方がよほど今後のためになる。選挙結果からは「民意」を読み取ることができるし、選挙で苦勞をした候補者がいちばん熱心にデータを見ているはずだからだ。

最初に選挙結果を確認しておこう。選挙人 (EV) の数はトランプ 312 対ハリス 226、民主党側からいえば、これは 2016 年以上の負けということになる。ただしそれ以上に重いのは、「一般投票数 (PV) で負けている」ことだ。2000 年以降で民主党が PV で共和党を下回ったのは 2004 年のみ。逆に 共和党側が得票率で 5 割を超えるのはめずらしい現象だ。

○直近 6 回の戦績 (3 勝 3 敗)

*EV=Electoral Vote (選挙人数) PV=Popular Vote (一般投票数)

	共和党 (Republican)	民主党 (Democrats)
2000	<u>G・W・ブッシュ</u> (43) EV:271 PV:5049 万票 (47.9%)	アル・ゴア EV:266 PV:5090 万票 (48.4%)
2004	<u>G・W・ブッシュ</u> (43) 現職 EV:286 PV:6200 万票 (50.7%)	ジョン・ケリー EV: 251 PV:5900 万票 (48.3%)
2008	ジョン・マッケイン EV:173 PV:5950 万票 (45.7%)	<u>バラク・オバマ</u> (44) EV:365 PV:6950 万票 (52.9%)
2012	ミット・ロムニー EV:206 PV:6090 万票 (47.2%)	<u>バラク・オバマ</u> (44) 現職 EV:332 PV:6590 万票 (51.1%)
2016	<u>ドナルド・トランプ</u> (45) EV:306 PV:6290 万票 (46.0%)	ヒラリー・クリントン EV:232 PV:6580 万票 (48.1%)
2020	ドナルド・トランプ (45) 現職 EV:232 PV:7420 万票 (46.8%)	<u>ジョー・バイデン</u> EV:306 PV:8130 万票 (51.3%)
2024	<u>ドナルド・トランプ</u> EV:312 PV:7605 万票 (50.1%)	カマラ・ハリス EV:226 PV:7309 万票 (48.1%)

さらに痛い事実として、民主党の得票は 4 年前に比べて 800 万票も減ってしまった。「バイデン/ハリス」に比べて、「ハリス/ウォルズ」がこんなに減ったのでは、ハリス氏が受けるショックはいかばかりか。相手は同じトランプ氏であったというのに！

2020 年は、コロナのために多くの州で郵便投票が導入されたこともあり、投票率は約 66% と史上最高水準に達した。今回も 65% とかなりの高水準だったけれども、「投票率が上がると共和党が不利」という定説は、今回は当てはまらなかったことになる。

また、トランプ氏の立場から見れば、3 回連続で共和党の大統領候補となり、「連続で得票率を上げた」ことになる。これではご本人が有頂天になるのも無理はない。

もうひとつ、選挙資金の問題もある。民間団体“Open Secret”によれば、両候補が集めた選挙資金はハリス氏が 10 億 315 万 8590 ドル、トランプ氏は 3 億 8153 万 7980 ドルと 3 倍近い差が開いている。ハリス氏はバイデン氏の資金を引き継いだこともあり、「物量」で大量リードしていたにもかかわらず、効果的に役立てることができなかったことになる。

●恒例、CNNの出口調査を読む

選挙結果をもう少し深く分析するために、CNNによる出口調査のデータを活用してみよう。以下の通り過去3回分と比較すると、ある程度のトレンドを確認することもできる。

	2024		Winner!	2020		Winner!	2016		Winner!	2012		Winner!
	Total	Harris	Trump	Total	Biden	Trump	Total	Clinton	Trump	Total	Obama	Ronney
Vote		48%	50%		51%	47%		48%	46%		51%	47%
Popular Vote		73,120,383	76,076,036		81,283,501	74,223,975		65,844,610	62,979,636		65,915,795	60,933,500
Vote by Gender												
Male	47%	42%	55%	48%	45%	53%	48%	41%	53%	47%	45%	52%
Female	53%	53%	45%	52%	57%	42%	52%	54%	42%	53%	55%	44%
Vote by Race												
White	71%	41%	57%	67%	41%	58%	70%	37%	58%	72%	39%	59%
African-American	11%	85%	13%	13%	87%	12%	12%	88%	8%	13%	93%	6%
Latino	12%	52%	46%	13%	65%	32%	11%	65%	29%	10%	71%	27%
Asian	3%	54%	39%	4%	61%	34%	4%	65%	29%	3%	73%	26%
Other	2%	42%	54%	4%	55%	41%	2%	56%	37%	2%	58%	38%
Vote by Age												
18-29	14%	54%	43%	17%	60%	36%	19%	55%	37%	19%	60%	37%
30-65	58%	47%	51%	61%	51%	47%	65%	46%	50%	65%	52%	48%
65-	28%	49%	49%	22%	47%	52%	15%	45%	53%	16%	45%	53%
Vote by Income												
Less than \$50,000	27%	47%	50%	35%	55%	44%	36%	52%	41%	41%	60%	38%
\$50,000 or More	73%	49%	48%	65%	51%	47%	64%	47%	49%	59%	45%	53%
Less than \$100,000	60%	46%	50%	74%	56%	43%	67%	49%	45%	72%	54%	44%
\$100,000 or More	40%	51%	46%	26%	42%	54%	33%	47%	48%	28%	44%	54%
Vote by Party ID												
Democrat	31%	95%	4%	37%	94%	5%	37%	89%	9%	39%	92%	7%
Republican	35%	5%	94%	36%	6%	94%	33%	7%	90%	32%	6%	93%
Independent	34%	49%	46%	26%	54%	41%	31%	42%	48%	29%	45%	50%
Vote by Religion												
Protestant	42%	36%	63%	52%	39%	58%	52%	39%	58%	53%	42%	57%
Catholic	22%	40%	58%	23%	45%	52%	23%	45%	52%	25%	50%	48%
Jewish	2%	78%	22%	3%	71%	24%	3%	71%	24%	2%	69%	30%
Other	10%	59%	34%	8%	62%	29%	8%	62%	29%	7%	74%	23%
None	24%	71%	26%	15%	68%	26%	15%	68%	26%	12%	70%	26%
When Did You Decide Who to Vote For?												
Today/Last 3 days	4%	41%	47%	8%	44%	46%	8%	44%	46%	9%	50%	44%
Earlier Than That	95%	47%	46%	91%	51%	49%	91%	51%	49%	89%	51%	47%

- ① 男女：毎回、女性有権者は男性より2~3p多く、「男性は共和党、女性は民主党」という傾向がある。2024年は男性が5pも共和党に傾く一方で、女性の民主党への投票は前回の57%から4pも低下した。これを見ると、人工中絶問題に関する民主党の訴えは、あまり効果を挙げなかったように見える。
- ② 人種：明確な変化がみられるのはラティーノ票である。既に人口では黒人を凌駕しており、人口増加率も高いので注目の有権者層なのだが、民主党は52%しか獲得できていない。かつて6割、7割を得票していたことを考えれば、これが最大の敗因と断じてもいいくらいだ。考えられるのは「不法移民問題」で、既に米国に定着しているヒスパニック層から反発を買ったのであろう。トランプ氏の側からいえば、「不法移民の強制送還こそ、次期政権の『一丁目一番地』」ということになる。

- ③ **若年層**：「若い世代は民主党支持」とはよく言われるところで、過去 3 回の選挙もそうだった。ところが 2024 年は、18-29 歳世代が全体に占める比率は前回から 3p 減って 14%となり、しかも**トランプ支持が意外と多かった**（前回比+7p）。
- ④ **年収**：今回最大の注目点。年収 5 万ドル以下の有権者で、珍しいことに共和党が 50%対 47%と 3p 上回っている¹。逆に年収 10 万ドル以上では、46%対 51%と民主党が 5p 多くなっている。一般のイメージとは正反対で、**「金持ちは民主党、低所得層は共和党」**なのである。共和党はトランプ氏の下で、『労働者の党』になりつつあるようにみえる。逆に民主党は、経済（景気、インフレなど）よりも社会問題（気候変動や DEIなど）を重視する「お金持ちの政党」となっているのではないか。ただしそれでは、ラストベルトの白人ブルーカラー層を取り込めないのは当然であろう。
- ⑤ **政党支持**：出口調査で「共和党員」を名乗る人の比率（35%）が、民主党員（31%）を上回った。**これは 2004 年以降で初めての現象**。
- ⑥ **信仰**：かつては 1 割程度に過ぎなかった「無宗教」（None）が、今年はどうとう 24%に達した。米国民の意識が急激に変化していることが窺える。無神論者の民主党支持が増える一方で、信仰心を持つ人の中では共和党支持がじりじりと増加している。

●実はやはり「僅差」だったのでは？

こうしてみると、2024 年選挙の実態がかなり鮮明に浮かび上がってくるだろう。民主党側の「トランプ氏の復活は民主主義の危機」といった訴えは空回りし、インフレや不法移民問題でバイデン政権を見放した層が共和党に投票した。**"It's the economy, stupid!"**（経済だけでいいんだ、馬鹿野郎！）という選挙の鉄則は、今回も有効であったと言えよう。

さらに **7 番目の注目点として、「浮動票」（直前に決める人たち）の動き**がある。かつては投票日前になっても「決めていない」（Undecided）有権者が、全体の 1 割程度を占めていた。それが今では 4%しかいない。それ以外の 96%は、計算してみるとほぼ支持が拮抗している。政治的分断化が極端に進んだ現在の米国では、ほとんどの人はかなり前に投票行動を決めているのだ。

ところが今回の選挙では、**「3 日以内に決めた」4%の有権者は 47%対 41%でトランプ氏に投票している**。ということは、彼らが勝敗を決めたことになる。終わってみれば大差だったが、「勝負は最後の 3 日間だった」というのが今回の選挙だったのかもしれない。

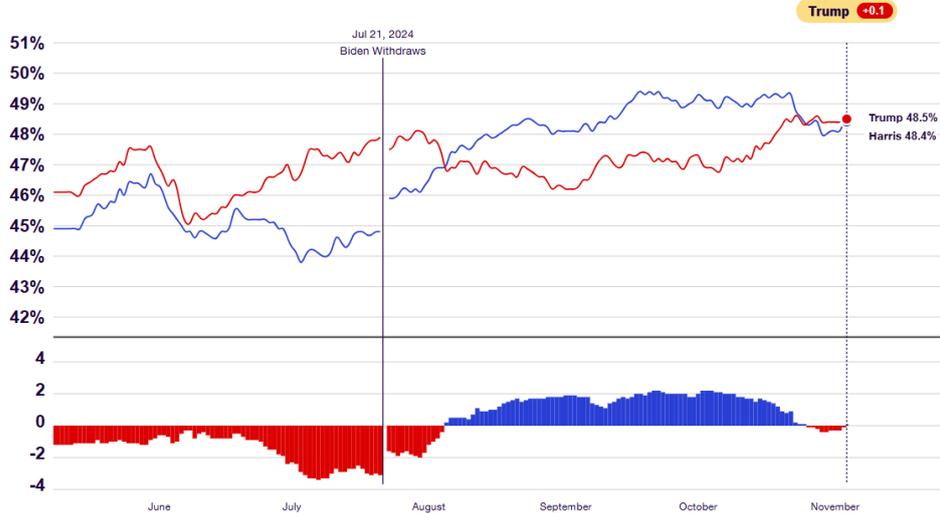
このことは選挙期間中、嫌というほど見た **RCP のグラフ（Trump vs. Harris=次ページ）と整合的である**。ハリス氏の支持率は 9 月 10 日のテレビ討論会后に急伸し、トランプ氏を 2~3p リードした状態がしばらく続いた。しかし 10 月下旬に急落し、伸びてきたトランプ氏と逆転している。

察するに、**投票日があと 2 週間くらい早ければ、全く違う結果が出ていた**のではないかと。2024 年選挙はやはり「接戦」だったのかもしれない。

¹ 年収 5 万ドル（≒750 万円）が低所得層になるのだから、近年のインフレの激しさがしのばれる。

Trump vs. Harris

(Trump vs. Biden Before July 21, 2024)



それでは最後の瞬間に、両者の明暗を分けた要素は何だったのか。筆者が思いつくのは、ハリス陣営が「セレブ」を呼んでコンサートさせたことだったのではないかと。ビヨンセとかレディガガとか、どう考えても白人ブルーカラー層の受けいいとは思われない。せめてブルース・スプリングスティーンのような男性アーティストを呼ばばよかったのだが。

反対にトランプ陣営は、最後の瞬間まで候補者のトランプ氏が一人で頑張っていた。最後の遊説地の演説は午後 10 時から予定のところ、午前 0 時から始まって午前 2 時に終わったそうである。とても 78 歳とは思えない。似たようなことは、2016 年のヒラリー・クリントン陣営でもあった。どうも民主党の幹部クラスは揃って「セレブ好き」で、それが庶民の反発をうけるという発想がまるで欠けているように思われる。

民主党の敗因については、例えば以下のようなことが考えられる。

- * 大統領選挙の基本は現職候補に対する信任投票。支持率 4 割のバイデン政権は普通は再選は覚束ない。ハリス氏はバイデン氏との差別化を試みたが、うまく行かなかった。
- * ハリス氏本人の資質の問題。予備選挙を経ていない候補者の限界が最後に出た。前回の大統領選に出馬した際の左派的な公約からのシフトも、理解を得にくかった。
- * 今年行われた選挙は英、仏、EU 議会、インド、韓国、そして日本と、ことごとく政権側が負けている（勝ったのはロシアくらい）。どこの国でも「コロナとインフレ」を経た後の民意は厳しいものがあった。

しかし勝負は「最後の 3 日間」で、最後の詰めを誤って負けたのだとしたら、民主党にとって悔やみきれない敗戦であった。上下両院でも多数を取られ、司法は「6 対 3」の保守優位が続く。それこそ、取り戻すのに 20 年くらいかかるかもしれないのである。

<海外報道ウォッチ>

トランプ当選に伴う泣き笑い

(観察対象：The Economist/ The Washington Post/ Wall Street Journal)

先週の米大統領選挙で「トランプ当選」が判明すると同時に、さまざまな「勝ち組」「負け組」が生まれつつある。ここではその悲喜こもごもを取り上げてみよう。

まずは「トランプトレード」から。選挙結果が判明すると同時に株価が上昇し、米国債の利回りも急上昇してドル高が進行した。The Economist 誌 (11/10) から”**America’s strengthening dollar will rattle the rest of the world**”² (米ドル高が震撼させる世界経済)。

- * 「ドルは我々の通貨だが君等の問題だ」 (コナリー財務長官)。半世紀後も事態は変わっていない。ドルの価値は米国内の事情で決まるが、変動は全世界に波及する。トランプ氏の政策はドルを過熱させると見られ、他地域の成長にとって問題となる。
- * 次期政権は減税や規制緩和を通じて米国企業の利益を押し上げ、政府の借入金も急増するだろう。インフレの再燃が重なれば、金利が上昇してドルには追い風となる。11/7のFOMCは予想通り0.25%利下げしたが、12月は据え置きの可能性を残した。
- * 世界経済が弱含むと、投資家は安全資産であるドルに向かう。ドルが10%増価すると新興国の産出は1.9%低下する。富裕国はそれほどでもないが0.6%減少する。
- * 世界貿易の4割は米国抜きでもドル建てで行われている。東南アジアやラ米ではドルの変動は現地通貨の変動より重要だ。ドル建てで借り入れしている国や企業にとってドル高は債務負担増を意味する。新興市場からは資金が流出して、金利も上昇する。
- * トランプ氏は長年ドル高を嘆いてきた。しかし中央銀行に利下げを強制することはできない。金利高が続く限り、ドル高は世界にとって厄介な問題であり続けるだろう。

いつもながらドルは米国の都合で上下するが、振り回されるのは世界経済全体だ。

お次は貿易問題について。これまた同様の構図があって、The Washington Post 紙 (9/9) 社説が”**Saving trade from Trump**”³ (トランプから貿易を守れ) と説いている。

- * 第2次大戦後、ハル国務長官は「貿易を通じて戦争をなくす」ことを主張した。この考え方はワシントンの基本戦略となり、WTOを創設し、NAFTAなどに調印した。
- * この戦略は今や死に体だ。第1期トランプ政権でTPPが消滅し、バイデンも保護主義を受け入れ、トランプが再び関税で米国を囲い込む。経済的なつながりを構築することで、世界の平和と繁栄を促進するという約束は完全に放棄されることになる。

² <https://www.economist.com/finance-and-economics/2024/11/10/americas-strengthening-dollar-will-rattle-the-rest-of-the-world>

³ <https://www.washingtonpost.com/opinions/2024/11/09/trump-trade-protectionism-national-security/>

- * かつてほどではないにせよ、米国はなおも多くの国にとって重要な輸出先だ。10%の関税で制限を受ければ、世界はより信頼できるパートナーを求めよう。
- * 確かに自由貿易は完全に機能したわけではない。NAFTA でメキシコからの不法移民は止められなかったし、WTO 加盟で中国を民主化することもなかった。この間に米国の製造業の雇用は減少し、そのコストがトランプ氏の保護主義的主張を後押しした。
- * 共和党内には、トランプ氏が狙う全ての国に対する「ラウンド-ロビン関税」は、交渉戦術であって見返りを求めているとの観測もある。その方が米国を孤立させるよりはまだマシだ。その「勝ち」で十分だとトランプ氏を説得できればいいのだが。

戦後世界の国際秩序は、米国という太っ腹な輸入先が居たからこそ実現した。その代わりが務まりそうな国は見当たらない。いまや貿易は戦争をなくす手段どころか、紛争の原因になりかねない。トランプ再選は世界の平和と繁栄に暗い陰を投げかけている。

最後にご紹介するのは、トランプ勝利で大儲けしたあの人について。11/7 付の WSJ 紙”[Elon Musk Wins Big with Trump Bet](https://www.wsj.com/articles/elon-musk-wins-big-with-trump-bet-1172019)”⁴ (トランプに賭けたイーロン・マスクの大勝利)

- * マスク氏はトランプ支援に1億ドル以上を費やした。トランプ氏が勝利した今、莫大な見返りを得る可能性があり、このことは前例のない利益相反となりかねない。マスク氏が率いるテスラやスペース X など 6 社の資産は合計で 1 兆ドルを超える。
- * マスク氏は 10 月以降、トランプ選挙戦の花形となった。プーチンやモディとも親しく、サウジやカタールは X の大株主だ。米国の外交政策にも影響しかねない。
- * スペース X はこの 10 年で政府と 150 億ドル超を契約している。NASA は宇宙ステーションへの移送を依存し、ペンタゴンのロケット打ち上げを担う。巨費を投じた大型宇宙船スターシップに期待大だが、連邦航空局による規制に対しては不満を隠さない。
- * 彼の最大の野心は火星有人探査で、政府の関与が欠かせない。スターリンク事業が政策の恩恵を受ける可能性もある。農村地域は光回線よりもネット接続に適している。
- * テスラはバイデン政権の IRA 法で恩恵を受けた。トランプ氏は懐疑的だったが、8 月には EV 支持を表明。今後は自動運転車の規制策定にも関与する可能性がある。22年には 440 億ドルでツイッターを買収。その X 社は SEC と FTC から調査を受けている。
- * マスク氏は第 1 期トランプ政権にも協力したが、パリ協定離脱に抗議して辞任している。両者は目立ちたがりの似た者同士。蜜月状態は長く続かないのではないかと。

なるほどハイテク時代の「政商」は規模が桁外れである。一人でこれだけの事業をやっていること自体が奇跡的だが、それがときの政権と結びついたら何ができるのか。ましてその相手がドナルド・トランプであるとしたら…。

⁴ <https://jp.wsj.com/articles/elon-musk-wins-big-with-trump-bet-8c339b08>

<From the Editor> 祝！通巻 800 号記念

古い読者であれば、本誌が 4 年ごとに CNN の出口調査を使うことをご記憶でしょう⁵。いつも同じようなことを聞いてくれているので、長く使う側にはありがたい調査です。いちおう 2004 年分から記録してあります。

ただし困ったことに、ネットに出た数字が後から修正されることがあるのです。2009 年に『オバマは世界を救えるか』という本を出版した際に、CNN のデータを掲載したところ、数字が変わっていることを新潮社の校閲が発見してくれました。いやもう油断ならない。先週の「東洋経済オンライン」に寄稿した⁶ときに使ったデータは、今見ると少しだけ変わっています。大勢に影響はないのですけれども、まことに困ったものです。

ともあれ「4年に1度の繁忙期」を何度も経験してくると、「ああ、またか」ということが多くなります。それでも 2024 年大統領選挙は、何とか無難に乗り切れそうな感じです。もっとも、この後に到来する「トランプ第 2 期政権」はかなりの難物となるはずです。引き続きしっかりウォッチしていきたいと思います。

さて、本誌は本号でめでたく通巻 800 号に到達しました。そういうキリのいい号で、米大統領選の結果分析をしているというのも、いかにも「溜池通信」らしいですね。

実は 2012 年夏に「通巻 500 号」を迎えたときに、仲間を呼んでささやかなお祝いをやったのです。その際に N 社の A 記者から、「1000 号まで書け」と言われたことが記憶に残っております（言った側は絶対に忘れていると思う）。そのときは「冗談じゃねえ。1000 号にたどり着くころには俺は 70 代になっちゃうぜ」と思ったのですが、実際に 800 号まで来てみると、「まあ、できないことはないかな…」と思えてくるから不思議です。

隔週刊でお送りしておりますので、4 年で 100 号のペースとなります。あと 8 年後ですね。大統領選挙もあと 2 回くらいは追っかけてみようか、という気になってきました。

筆者は先月で 64 歳の誕生日を迎えましたので、会社勤務の方はこの先が「最後の 1 周」となります。それでも自分で勝手に書き続ける分には、どこからも文句が出ることはないでしょう。引き続きのご愛読を心よりお願い申し上げます。

* 次号は筆者国内出張のため、1 日早めて 11 月 28 日（木）にお届けいたします。

編集者敬白

本レポートの内容は担当者個人の見解に基づいており、双日株式会社および株式会社双日総合研究所の見解を示すものではありません。ご要望、問い合わせ等は下記までお願いします。

〒100-8691 東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビル <http://www.sojitz-soken.com/>

E-mail: yoshizaki.tatsuhiko@sojitz.com

⁵ <https://edition.cnn.com/election/2024/exit-polls/national-results/general/president/0>

⁶ <https://toyokeizai.net/articles/-/838955> 「選挙圧勝」でも次期トランプ政権は簡単じゃない（11月9日）